

榊原病院 Monthly

Vol.49 2021.June

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ
1991年富山医科薬科大学医学部卒
1996年同医学部大学院卒
2014年国立病院機構北陸病院精神科部長
2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院長就任。
日本司法精神医学会理事。



病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

「榊原病院の魅力を知ってほしい、再発見してほしい」
看護部長 濱中 陽子

令和3年4月、初めての三重県での勤務にドキドキ、ワクワクしながら当院の看護部長に着任しました濱中陽子です。よろしくお願いたします。ようやく、この素晴らしい風景、青山高原の風車を眺め、田畑のにおいを感じ、近くの小学校の通学風景を目で追いながら通勤する余裕が出てまいりました。

榊原病院は、精神科単科の病院ですが、幅広い疾患に対応しています。私は、地元石川県の総合病院の精神科病棟で勤めた経験はありましたが、ここで出会う患者さんとは病状も背景も、治療薬も大きく異なり、「これぞ精神の専門性！」と発見の日々です。その中での普遍性に懐かしさも感じています。当院の理念にもある、最も大切なひとである「治療を受ける人」を理解し、支え、ともに歩む姿勢です。患者さんと職員、患者さん同士にも互いを支えあう空気がここにはあります。

病棟改修も進み、今秋には全入院患者さんにとってより過ごしやすい治療環境が整えられます。が、ここが患者さんにとっての永住の地ではありません。精神疾患を有しながら、当院にたどり着いた、あるいは巡りあえた患者さんが地域社会の一員として生活できるための、いつでも頼れる専門サポーター集団として、より一層まい進したいと思っております。

この広報誌を手にとされる方は、当院をご存じの方がほとんどかと思いますが、まだ知らない方にも是非知っていただきたい、榊原病院のことを。榊原の地のことを。

当院は自家用車がないとやや不便な立地にありますが、専用のマイクロバスが運行しており、通院やデイケア利用者の足となっています。周辺には、美肌の湯である榊原温泉、湯の瀬川などの散策コースもあります。仕事に、勉強に、コロナ禍で少しだけ疲れたと感じた方には、当院周辺の山や川、花や木、風など自然に触れ、メンタルヘルスを向上させてはいかがでしょうか。そして、生活に影響がでる前に、当院の外來にご連絡下さい。今般の新型コロナウイルスのまん延防止措置に伴い、デイケアの一時中止や訪問看護の縮小等余儀なくされていますが、多くの人と関わりたい職員たちが、皆さんをお待ちしております。

トピックス

行事・出来ごと

- 依存症関連問題Webセミナーを令和3年6月14日に開催します。(詳細裏面)
- 現在、建物の老朽化及び機能向上のため、病棟改修工事を行っております。病棟を入れ替えながらの改修となり、工事完了は令和3年9月を予定しています。
- 新型コロナウイルス対応として、入院患者様の外出、外泊、面会を制限させていただいております。情報は随時更新しておりますので、院内掲示やホームページで御確認願います。



←第1期改修後の病棟をご覧いただけます。

診療科	診療内容
一般精神科	
アルコール・薬物依存症	
専門外来	
こころのリスク外来	
病床数	病床数
176床	精神科病棟 157床
	医療観察法 18床
	認知症ユニット



電車・バス/ 近鉄久居駅下車 三交バス
(車庫前行き) 約30分
自動車/ 久居インターより約20分

マイクロバス/ 久居駅より直通バス(約25分)

地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和3年3月までに全症例は114例となりました。新規導入は3月0例、4月1例、5月2例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか。「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われてます。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談ください。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われてます。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは、新型コロナウイルス感染予防策として、令和3年4月13日より休止しております。デイケアご利用の皆さまに、ご不便をおかけしていることを、大変申し訳なく思います。現在は、デイケアで皆さまとお会いすることはできませんが、再開に向けて職員一同準備を進めています。たとえば、デイケア看護師は、新しいプログラムのコグニサイズで、皆さまと一緒に心とからだの健康をはかろうと練習に励んでいます。デイケアではこれからもご利用される皆様に来てよかったと思っただけのように、活動を充実させたいと考えています。どうぞ皆さまの、ご希望やご意見をお聞かせください。



(左)4月に行った散歩の風景です。

(右)デイケア室の庭でアマリリスが咲きました。

※ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。



栄養コラム



「日本人の食事摂取基準2020」ビタミンDが豊富な食品「魚」若い方は意識して

国民の健康保持のために摂取することが望ましい栄養量の基準を定めた「日本人の食事摂取基準」について、ビタミンDの目標量が骨折のリスクを上昇させない量を基準にして改定されています。ビタミンDは、カルシウムの吸収を促進し、骨を強くする栄養素です。

しかし、多くの日本人で欠乏、または不足している可能性があると言われており、今回、18歳以上の目安量が男女とも5.5μg/日から8.5μg/日に引き上げられました。

ではビタミンDが多く含まれる食品は何だと思いますか？

1回あたりの摂取量で最も多いのは、魚、特に鮭だと言われてます。ビタミンDの目標量は焼き魚を主菜として、週に2～3回食べれば摂取できると言われています。

主な供給源である魚の摂取量が少ない若い年代においては、ビタミンDが不足しやすくなります。骨を強くするために積極的に魚を食べるようにしましょう。

依存症関連問題Webセミナーの開催について

依存症関連問題Webセミナーを令和3年6月14日(月)(13:00～17:00)に開催します。参加無料・事前予約は不要です。ご興味のある方は、榊原病院ホームページをご覧ください。

